子どもと話そう 性のこと愛のこと ◇8◇

子どもの反抗期への対応 ―欲望と理性を教える―

親に対する第1次反抗期は3歳ころから、第2次反抗期は小学校5年生ころから始まります。これは大脳の発達と密接に関連しています。

私がある小学校5年生の授業を行った時に出した設問の1つは「心のことで気になっていることは？」。その回答は次のようなものでした。

「お母さんに反抗してしまう」「家族の僕に対する態度がひどくなった」「友だちに悪口を言われムカついた」。

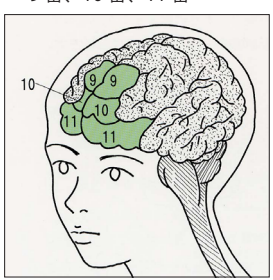
そこで私は言いました。「みんなの年ごろは第2次反抗期。社会に出てからの反抗はトラブルのもとだから、今はトレーニング中と考えて、大いに反抗なさい。ただし『クソばばあ』などと怒鳴らないで。こういう理由でお母さんの言うことが納得できないと言葉をたくさん費して、お母さんと話し合おう」と。

そして、ドイツの解剖学者が神経細胞の種類、形状で脳を区分し番号をつけた『ブロードマンの脳地図』の話をしました。食欲、睡眠欲、性欲、闘争欲などは、動物が生きていくため、種の保存のため、自分の身を守るために必要で、そうした〝本能〟は脳がつかさどっています。これを〝古い皮質〟といいます。ところで人間は、その周りを「新しい皮質」、つまり理性がすっぽり取り囲んでいるのです。

私は脳地図で新皮質の一部を示して言いました。「闘争欲がむき出しになって『あいつ、いじめてやろうか』と思った時、君の大脳の新しい皮質―9番、10番が『やめとけ、やめとけ』って止めるんだよ。で、やめたら、11番が『偉い、偉い』と褒めるので、君の脳は一段と発達するのです」。

いじめなどの闘争欲を抑える理性の存在を子どもに認識させることも、重要な性教育の一つなのです。

ブロードマンの脳地図の、9番、10番、11番



文　北沢杏子　絵　妹尾一朗
監修　栗原久
2000年アーニ出版刊